

## 危険なくいかたかもしませんが

時代	昭和38年頃	平成22年
制度	老人福祉法	第4期介護保険事業
百歳長寿	150人程、選ばれし人 価値観として尊い	4.4万人超、全国各地 親孝行したくないのに
施設・ 介護像	遠くにありて思うもの 他人事、姥捨て山？ 嫁に妻(預けるなんて)	リアルタイム、 自分事、権利意識 外部委託(共倒れ)
認知症	統計データなんて？	85歳以上、4人に1人
地域・ 家族等	インフォーマルな絆 遠くの親戚より近くの	フォーマル、隣は何を 核家族に独居
看とり	自宅	病院

## いまの地域をみながら、そして課題

- ・ 断られ続けで居場所のない人への支援として箱物
- ・ 施設入所は本人不在の周辺事情の求め
- ・ あきらめの場所とならないよう
- ・ しかしながら、老々、認々介護の悲惨さ
- ・ 社会化は専門性を求めるが、それらしい報酬か
- ・ 安くあげるなら嫁や妻の介護でも良いし、現金給付？
- ・ 縛る・閉じこめるなどの非日常的環境が求める専門性と倫理観、尊厳や自由とのからみ
- ・ 隔離収容的雰囲気から可視的モデルへの変換
- ・ 周囲が求める支援も我が事としてとらえつつある
- ・ 生きていて楽しくなるようなサービスは果たして
- ・ 病気に介護の困り事、医療・介護保険への期待
- ・ 地域包括・在宅介護支援センターへの期待
- ・ 家族同士の励まし合い

## (地域) 生活の継続を目指すには

- 介護保険の提供時間外に目を向る
- 個別ケース対応があって、地域を広げられていく。
- 医療に見捨てられては、益々不安(独居や認知症は特に)、バックアップとしての拠り所
- 地域全体のケアの質に関わっている(自意識過剰かもしれないが)意識啓発で、土壌づくり。
- 地域と成長する気持ち
- 個人の限界、責任、厳しさは、地域全体で検討
- 地域を知り、高齢者と家族介護者の生活を理解する力
- 「利用する力」「サービスを作り出す力」「分け合う力」の協働を、創り出す。自治組織との協働が出来れば
- 安心生活創造事業への挑戦



## 所属する平成園の紹介

- ・特別養護老人ホーム(65人)自称元祖既存改修型ユニット
  - ・ショートステイ事業(15人)
  - ・デイサービス事業(365日、6~8時間、30人)
  - ・雄勝在宅介護支援センター
  - ・居宅介護支援事業所
  - ・ホームヘルプ事業
  - ・訪問入浴事業
  - ・365日3食配食サービス
  - ・(ときどき)会食サービス
  - ・福祉有償運送(通院中心だけど)
  - ・(地区へ)出前デイサービス(木/毎週)
  - ・特定高齢者向け各種介護予防事業
  - ・喫茶「ふれ愛」(知的障がい児・者とその家族の会「ひまわり会」運営)
  - ・76.3メガヘルツFMラジオゆうとぴあ「ほのぼのの横町物語」(火/毎週)
  - ・思いやりメッセージフェスティバル
  - ・高齢者相互援助ホーム(夏山冬里支援)福寿荘
  - ・小規模多機能型居宅介護事業 桜おかだ
- ※ 法人内には障がい者支援サービス

